

〔短報〕

キク・トマト・キュウリの薬害の実例

上 田 進

(県農えひめ農業技術センター)

Illustrations of phytotoxic injury by agrochemicals on chrysanthemum, tomato and cucumber.

By Susumu UEDA (Agricultural Technical Center, Ehime Prefectural Federation of Agricultural Cooperatives, Masaki-cho, Ehime)

1. キクのトリホリン乳剤散布による薬害

伊予三島農業改良普及所からの要請により、1989年3月17日、病虫害防除所および農業試験場と共同で調査した。愛媛県土居町天満の施設キク(秀芳の力)、50cm程度の草丈で、写真1、2のように先端葉は黄白色となり、奇形症状を呈し、生長はほとんど停止した状態を示していた。農家の話によると「1988年高松市の花市場でいわゆるアメリカ農薬(安価)として購入し、3月上旬までの冬期に示された稀釈濃度で3回散布した」と言う。薬害発生は高温時の散布が原因ではないかと思われた。被害は散布した全株におよび、開花しても販売できる見込みがないので全株を処分した。トリホリン乳剤は「クミアイ農薬総覧」(1995)によるとキク白さび病に対し「1,000~1,500倍として散布する。キクに使用する場合は、①品種(新精興など)、作型(促成栽培など)によっては新生葉に奇形などを生じる恐れがあるので注意する。②特に初めて使用する品種、作型ではあらかじめ小面積で試用し、薬害の有無を確認するなど注意して使用する。③冬期に無加温ハウスなど温度が著しく変動する場合の使用は避ける。」と注意点が示適されている。なお行本ら(1985)も同様のことを報じている。

2. キュウリのジチアノン水和剤とホサロン・DDVP乳剤との混用液散布による薬害

松山市平井町の家庭菜園において、1995年4月29日植付けしたキュウリに、ジチアノン 40%水和剤(デランフロアブル) 1,200倍にホサロン・DDVP乳剤(ホサロン20%, DDVP 40%)(ランベック) 700倍加用液を5月13日散布した。5月20日

頃から写真3に示すように、蔓の先端部の葉縁および葉脈間が帯状に黄化ないし淡黄化し、生育が数週間にわたり抑制された。

ジチアノン水和剤そのものはキュウリに登録はないが、ジチアノン・銅水和剤とジチアノン・チオファネートメチル水和剤はキュウリ病害に登録がある。しかし、前記総覧は「キュウリ幼苗期または高温時(30℃以上)は使用しない」と注意書されている。

ホサロン・DDVP乳剤 1,000~2,000倍はキュウリ害虫に登録はあるが、前記総覧によると「ウリ類には晩霜の危険時には使用しない」とされている。また筆者の経験によると、各種殺菌剤との混用液で使用しているが、薬害は現在まで発生していない。したがって本症状はジチアノン水和剤による薬害と推定された。

3. トマトのカルタップ・ピラクロホス水和剤とチオファネートメチル水和剤の混用液散布による薬害

松山市平井町の家庭菜園において、1996年5月2日植付けしたトマトにカルタップ・ピラクロホス(カルタップ35%, ピラクロホス18%)水和剤(メラード)の1,200倍にチオファネートメチル水和剤 1,500倍加用液を、5月5日散布した。5月13日頃から写真4に示すような、トマトの主として葉縁が白褐色に変じて枯れ、生育が1か月以上にわたり抑制された、そのため収穫量は半減した。

カルタップ・ピラクロホス水和剤はトマトには登録がない。前記総覧によると「ナス、タバコには薬害を生じる恐れがあるのでかからないよう注

意する」とされている。

本水和剤の主成分の一つカルタップはバレイショ害虫に登録がある。しかし、他のナス科植物であるタバコ、ナスでは「葉に多量に付着すると葉害を生ずることがあるので注意する」と前記総覧で記されている。

もう一方の成分ピラクロホスはタバコ、バレイショ害虫に登録があり、葉害等の注意事項は前記総覧には記されていない。また筆者はチオファネートメチル水和剤も各種殺虫剤との混用液とし

て、現在まで使用しているが葉害は発生していない。したがって本症状はカルタップ・ピラクロホス水和剤による葉害と推定された。

引用文献

- 1) J A全農肥料農薬部農業技術普及課(1994): クミアイ農業総覧(1995), 全国農村教育協会, 東京, 635~636.
- 2) 行木峰子・浜田虔二(1985): 原色作物の葉害, 全国農村教育協会, 東京, 224~259.



写真1 キクのトリホリン剤による葉害（全景）



写真3 キュウリのジチアノン剤による葉害



写真2 キクのトリホリン剤による葉害（拡大）



写真4 トマトのカルタップ・ピラクロホス剤による葉害